

## 編集後記

J of FIA, Vo. 15, No. 2 記念号の巻頭言は会長である本水先生に書いていただきました。また、FIAの創始者であるProfessor J. Ruzicka(Univ. of Washington)にも寄稿をお願いしたところ、快く引き受けていただき、我々へのメッセージが掲載されております。総説は筑波大学の河島先生、埼玉工大の内山先生に執筆していただきましたが、スペイン、Universidad de ValenciaのProfessor Calatayudからも Reviewの寄稿があり、J of FIAが海外においても高く評価されていることをうれしく思います。1998年10月8日にFIA研究懇談会地区委員会が開かれFIA学術賞、技術開発賞、進歩賞の選考が行われ、12月1日のJAFIA創立15周年記念式典で受賞式が行われました。それに基づき、受賞者の業績を掲載されました。受賞者の皆様おめでとうございます。益々のご活躍をお祈りします。No. 1と少し編集のやりかたが変りました。ひとつは巻頭言、総説の執筆者の写真を掲載し、ソフト的イメージアップを図りました。もう一つは二段組の原稿が混載されております。編集委員会で二段組について議論しておりますが、皆様からのご意見を頂き、編集の在り方を検討したいと考えております。J of FIAの編集業務が分担制となり、総説は山根(山梨大教育)、指標 善木(岡山理大)、Personal review 今任(九大工)、トピックス 佐藤(神奈川工大)、国外依頼 伊永(徳島大総合)の各先生に原稿依頼等を担当して頂くことになりました。依頼がありましたら、よろしく申し上げます。また、学会情報は大島先生(岡山大理)、Bibliographyは手嶋先生(愛知工大)に引き続いて検索をお願いしております。J of FIAの表紙は大変愛着のあるデザインですが、この由来はなぞです。今回そのいきさつを馬場先生(徳島大薬)にお願いしました。そのルーツを理解の上、一層本誌を愛読して頂ければ幸いです。皆様のご協力で記念号No. 1, No. 2とも質の高い紙面となり、感謝致します。

編集委員会

酒井 忠雄